



## てんかんセンター巡り 第4回



独立行政法人国立病院機構

# 西新潟中央病院てんかんセンター

### 施設概要

- 住所 〒950-2085 新潟市西区真砂 1-14-1
- 電話 025-265-3171 025-265-2299 (予約専用 13:00-17:00)
- ホームページ <http://www.masa.go.jp/epi/>

診療科：医師数 神経小児科：5人(2人)、てんかん科1人、  
 (日本てんかん学会専門医) 機能脳神経外科：5人(2人)

外来診療 (予約制。新患も予約が必要です)

- ・神経小児科 <再来>月、火、水、金 <新患>木、金
- ・てんかん科 <再来>水、木、金 <新患>火
- ・機能脳神経外科 <再来>月、水、木 <新患>月、水

### 施設の特徴・地域の中で担う役割

西新潟中央病院は、新潟県での国立療養所の統廃合により1995年に誕生しました。呼吸器疾患と神経疾患を中心に先進医療を

提供し、かつ地域に密接した診療を行うことを理念に、2013年7月には7階建ての新病棟を完成させ、「専門職種によるチーム医療」を提供する各センターを設置しました。

これに先立ち、当院のてんかんセンターは、静岡に次いで日本で2番目に設立され



**JEPICA**  
Japan Epilepsy Center Association  
全国てんかんセンター協議会

## 施設からの アピール

初めて受診さ

れる場合、脳波やMRIなどの必要な検査を行い、その場で今後の治療の方向性を相談、決定できるように、完全予約制をとって十分な診察、検査後の説明時間がとれるようにしています。入院される場合、小さいお子さんでも病棟では専属の保育士が入院中のサポートを行うほか、新潟県立はまぐみ特別支援学校の訪問学級が併設されていて、学齢期の方も入院、治療を受けながら、学校の授業が受けられます。遠方から来られる方の

たてんかんセンターだった寺泊病院を受け継ぎ、脳神経外科を加えて1995年の統廃合とともに誕生しました。設立当初より「包括的てんかん診療」、つまり薬物治療から外科治療、さらにはリハビリテーションや保育、社会復帰までを、医師、看護師のみならず、検査・放射線技師、理学・作業・言語療法士、臨床心理士、保育士、ソーシャルワーカーなど多職種が連携して診療を行う体制を整えてきました。

現在、月に2,000名弱の方が外来を受診されており(うち新患が70~80名)、常時35~40名ほどの方が入院、検査・治療を受けられています。

プレイルーム(写真右)と  
長時間ビデオ脳波検査室  
(写真左)



外科手術は年間40件ほどで、脳磁図を中心とした徹底した術前検査を行い、特に新皮質てんかんの外科治療に積極的に取り組んでいます。また、併設された視床下部過誤腫センターでは、難治性笑い発作をきたす視床下部過誤腫の外科治療を行っており、日本全国のみならず、ロシア、韓国、東欧、ブラジルなどの海外からも治療を受けにいられています。当院で開発した定位温熱凝固術は発作消失率が高く、合併症率が低いという理想的な治療で、年間約30件、2015年7月現在144名の方が治療を受けられ、約8割の方で笑い発作が消失しています。

ために宿泊施設を備え、土・日・休日の入院も可能です。また、病棟には5室の最新の長時間ビデオ脳波検査室を備えています。

当てんかんセンターは、日本てんかん学会専門医認定研修施設として医師の研修を行う一方、受診・入院された方に最高の医療を提供できるように、看護師、検査・放射線技師、理学・作業・言語療法士、薬剤師、保育士、栄養士などのスタッフを対象にてんかん専門医療者研修を行い、試験を経て院内認定を行うなど、てんかんの医療・看護の質の向上をめざした取り組みを行っています。

(機能脳神経外科 増田 浩)